

TM ニュース

TM ミーティング参加生徒用情報 3号 2016. 9. 20

クラウドサービス導入から47日!

高1は学習時間減

高2は学習時間増!!

7月21日からクラウドサービスを利用した学習時間管理等を始めました。1学期は、手書きの生活記録を付けていましたが、夏休みから導入したクラウドサービスでは、自宅のパソコンやスマートフォンから入力ができ、生徒の皆さんにとっては、手間がかからなくなりました。

高校1年生の学習努力表

生活ノートを利用した1学期の目標総学習時間(目標180分/日×77日間)と、夏休み初日から9月の2週目まで(180分×47日間)とを比較してみました。

一人一人の傾向を見ますと、高校2年生は、1学期に比較してTMの目標総学習時間到達へ努力している生徒が**倍増**しました。一方高校1年生は、1学期に比較して、残念ながら努力者は**4割**になりました。高学年生の自己管理能力が如実に出了結果です。しかし、1年生でも着実に学習時間を重ねている人はいます。

普通人である限り、基礎基本をしっかりと固めるためにはある程度の時間がかかります。コツコツやりきれぬかが最後には勝負を決めます。道のりはまだ長いのです。あきらめずにコツコツ続けた人が医師へのパスポートをつかみます。

さて、皆さんへの励ましを兼ねて9月21日から個人面談を始めます。楽しみにしています。

高校2年生の学習努力表

高2生	5月2日-7月17日						7月21日-9月6日						クリアー導入
T	1855	4752	3657	3266	1032	14619	1120	5320	2855	1995	350	12200	47
U	2800	4820	3070	2795	2195	15080	1275	2640	1850	1110	315	6690	45
V	420	1850	1800	1560	60	6000	1290	4500	3000	570	90	9480	46
W	1545	4025	3150	2515	1620	12925	1850	2955	1725	1835	405	7770	41
X	0	260	100	0	0	320	0	400	390	510	0	1500	5
Y	300	3740	1690	720	300	7410	0	170	0	0	60	280	1

青色は達成者
黄色は未達成

青色は達成者
黄色は未達成

解説

「1学期」と「夏季休業・2学期当初(9月6日)」期間で学習努力を比較してみました。

1学期(5月2日~7月17日)180分×77日間

→ 13,860分が目標値(クリアは濃い水色)

夏季・2学期(7月21日~9月6日)180分×47日間

*入力は9月5日までの47日間

→ 8,460分が目標値(クリアは濃い水色)

戸山高校進路部からのメッセージ

TM の みなさんへ

進路部主任 近藤明夫

戸山祭も終わり、3年生にとっては、いよいよですね。医学部医学科という高い目標に向かって取り組む皆さんに敬意を表します。今回は、3年生へのメッセージを書いてみました。(1、2年生は、自分自身の

将来の姿とあって、読んでください。) 国立の医学部を考える場合、最初の関門がセンター試験です。5教科900点満点で、800点くらいが目標になっていることでしょう。なかなか大変なことです。7月末の全統マーク模試や9月の駿ベネマーク模試の結果はいかがでしたか?思うように点数が伸びず、落ち込みだりしていませんか?

50万人の受験生、全員に共通ですが、模試の判定が良いと、安心したり、うれしくなったりします。反対にE判定などを見ると、悲しくなります。しかし、安心してください。特に医学部医学科のようなハイレ

ベルな目標では、この時期までに、「A 判定」や「B 判定」が出ることは稀です。ほとんどの受験生が「E 判定」です。さまざまな場で言われることですが、現役生は受験の「当日まで伸びる」ものです。判定や目先の結果に動揺せず、自分自身の力を信じて、前進のみです。とは言っても、具体的な対策も必要です。まずは、TMの先生方と今後の“作戦”を話し合ってください。

①センター試験の目標点に向けて、どの科目を、どの程度学習するのか？

②現在の状況で合格を手にするために、どこの大学を目指すのか？

第一志望の大学への合格がもっとも望ましいです。しかし、みなさんの目標は、医学部に行くことではなく、医師になることだと思います。医師への道を切り拓ける方法をしっかりと目指してほしいと思います。くれぐれも健康には気をつけて、目標に向けて、進んで行ってください。

なお、進路情報など必要があれば、いつでも進路室に来てください。医学部の赤本などもあります。ぜひ、足を運んでください。

夏の体験学習について（報告）

●国立精神・神経医療センターの体験学習に参加

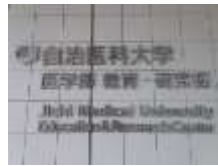
7月16日（土）SSHとTMの生徒25名が『脳科学の最前線』に関わる体験研修に参加しました。研究者からの講演のあとは施設内の研究室を体験しながら見学してきました。最先端の研究に触れることができました。



（参加者の感想の一部）脳について様々な方向から考えることができたのでよかったです。最先端の脳の実感したので良かったです。脳科学は興味のある分野だったのでそれぞれの研究内容がとても面白かったです。特に超音波と脳の関係に興味を持ちました。

●自治医科大学の体験研修に参加

7月21日（木）、1年生10名が自治医科大学医学部体験実習に参加しました。医学部教授による模擬講義、体験実習、施設見学等盛りだくさんでした。体験実習では、酸素吸入のための器機の気管挿入や食紅を用いた採血、AEDを使用した救命措置の練習（もちろんダミー人形で）を経験しました。昼食は自治医科大学の食堂を利用し、そこで戸山高校OBの方の話も聞くことができました。この体験実習を通じて、医学部を目指すという意志がますます強くなったと思います。



（参加者の感想の一部）採血や器官挿入などあまりできない貴重な体験ができたのでよかったです。医大生の声を聞いたのがよかったです。シミュレーション体験が特に貴重なものだったのでよかったです。夏休みの体験のなかで1番心に残っています！講義は少し難しかったけれど、体験は自分が医師になるというイメージが強くなりました。自分も自治医科大学に行けたらいいな、と思いました！

●東京都医学総合研究所の講演会及び実験講習に参加

8月3日（水）1・2年生17名が東京都医学総合研究所の体験学習に参加しました。午前は講演で前半は副所長の正井先生よりゲノムについて、後半は先進気鋭の宮岡先生の研究者について、経験を通してのお話を興味津々に聞き入りました。午後は4つの班に分かれ、各研究室の見学と遠心分離などの体験実習もおこなわれました。見学後は講堂で質疑応答があり、受講生代表に選ばれた本校生のお礼の言葉で締めくくられました。



（参加者の感想の一部）医師とは少し違った研究者という職業について知ることができ大変参考になりました。特に、脳の標本や電子顕微鏡で観察した柔毛の画像などの普段目にするものを見させていただいて医療に対する興味がさらに深まりました。実物の脳を見たりできたので大変貴重な体験だった。生命科学の研究だけではなく研究者のあり方を知ることが出来ました。また、実際に体験できる機会が沢山あったので充実していました。

●東京都立大塚病院の体験に参加

8月4日（木）、1・2年生9名が都立大塚病院体験に参加しました。副院長先生による病院概要の説明、各部門体験で、周産期関係・手術室関係・画像（超音波、放射線等）がありました。その後、大塚病院で勤務されて

いる先生方による話や意見交換会もありました。先生方の中で本校 OG の方の話も聞くことができました。病院というリアルな現場でリアルな経験を通じて、医者を目指すという思いがさらに強くなったと思います。



↑
画像診断
← 手術室内

(参加者の感想の一部) 特に印象に残ったのは手術室です。他にも地域の病院として患者さんとの関わり方を実感出来ました。最後の意見交換会が思ったよりも楽しく、お医者さんの本音を聞けました。手術室など、普段入れない所に入れて、貴重な体験だった

●東京都立駒込病院の体験に参加

7月26日(火)1年生5名で駒込病院の施設見学に行きました。緩和ケア病棟、放射線科、病理科、感染症科の施設を見学した後、実際に勤務されている先生による熱血授業 (medical doctor とは?) で70分がありました。駒込病院は、JR田端駅から徒歩で15分、設立は1879年。ガンと感染症を中心とした高度専門医療が評判で、都道府県がん診療連携拠点病院であり、約800床、外来1300人です。



放射線科 (サイバーナイフ)



医師とのディスカッション

(参加者の感想の一部) 病院のことを知れて良かった。大きくて設備がとてもしっかりしているので時間が許すかぎりもっと多くの場所を見学したかった。体験が多く、ひとくちに医師と言っても科によって仕事は全く異なることを知りました。他の病院にはない科もあり、来年もぜひ実施してほしいです! 医師との懇談会も強く印象に残っています。楽しかったです。 医師の方々

とあんなにお話できる機会がありませんので、新鮮でとてもよかったです。

◎小論文対策について

国語科の横堀先生から、小論文の壺を解説していただきます。今回のタイトルは、「小論文講座1 書くための主体作り」です。連載されますので、論文作成の参考にしてください。

小論文を書いていく上で最も基本的なことは“書く主体を作る”ということです。「何を、どのように書いていいかわからない」という声をよく聞きます。「どのように」ということについては技術的な問題ですから、勉強をしていけば上達します(後の回で述べます)。しかし、「何を」ということについては、その人が書くための材料を持っていなければどうにもなりません。「何」は端的に言って知識です。小論文を書く時には基本的に自身の持っている知識を題材にします。

知識には二つの要素があります。見聞(外から入ってくる知識)と体験(自身が行動して獲得する知識)の二つです。豊富な知識があれば様々なことは書けますが、それらを結びつける自身の体験がなければ魅力ある論文になりません。例えば、環境問題と日頃のゴミ分別に対する意識などこれにあたります。環境問題の知識だけでは一般論で終わってしまう、自身の体験と結びついてはじめて個性的で説得力のある文章になるのです。

皆さんが第一にやること、日頃から新聞、ニュース、書籍等に触れて知識を自分のものにしましょう(もちろん授業も!)。そしてそれらが自身の体験、問題意識とどう結びつくか考えるのです。おすすめはNHKの「クローズアップ現代」等の番組をメモを取りながらみることです。もちろん時には速報性ゆえの誤りもありますので、ご注意ください。

知識を蓄え、日ごろから考える、そうした主体作りが小論文の第一歩です。

10月のTMミーティングについて

10月8日(土) 午後1時30分～ 於:生物講義室

東京都医学総合研究所からお二人の研究者に来ていただきます。最先端の研究業績が伺えます。多角的に物事を考える際の知識にしてください。積極的に質問をしてください。

糸川 昌成 病院等連携研究センター長

演題:『医学をきわめるーからだと心の科学』

原 孝彦 幹細胞プロジェクトリーダー

演題:『iPS細胞を用いた血液再生医療』

*各45分間の講演です。

<New>

1月の最新医科学講演会は、戸山高校OBで、国立大学法人東京医科歯科大学医学部教授の磯部先生の講演が予定されています。楽しみにしてください。